



地域を  
訪ねて～青函トンネル記念館【青森県・北海道】～



# 青函トンネルの歴史と技術を伝える ——開館 35 周年を迎えた青函トンネル記念館

本州と北海道を線路で結び、人々の移動を支えるとともに物流の大動脈を担う青函トンネル。その建設は世紀の大工事として日本の建設史に大きな影響を与えた。全長 53.85km のトンネル建設には多くの困難が伴ったが、過酷な条件の中で工事に挑んだ人々の情熱が完成へと導いた。青森県東津軽郡外ヶ浜町にある青函トンネル記念館では、建設の歴史をわかりやすく紹介している。青函トンネルの歴史とともに開館 35 周年を迎えた記念館の歩みを振り返る。

文・写真：吉谷 友尋 (鉄道ライター)



青函トンネル記念館付近から望む津軽海峡



① 1階展示ホール ② 2階ギャラリー (提供：青函トンネル記念館) ③ トンネル掘削工事の模型



**青函トンネル記念館 (青森県)**  
 ■開館時間：8:40～17:00 (冬季間は休館)  
 ■入館料：大人400円、小人200円  
 ■体験坑道乗車券 大人1,200円、小人600円  
 ■セット券 大人1,500円、小人750円  
 ■電話：0174-38-2301  
 ■住所：青森県東津軽郡外ヶ浜町三厩龍浜99

## 乗合タクシーを利用して 青函トンネル記念館へ

青函トンネル記念館は、1988年3月に開業した青函トンネルの歴史と技術を振り返る施設だ。青森県東津軽郡外ヶ浜町にあった本州側の基地跡地を利用し、同年7月にオープンした。

記念館は津軽半島の最北端である龍飛崎に近い場所に位置しており、アクセスはレンタカーを利用するのが便利だ。公共交通機関で向かうには JR 津軽線の蟹田駅から代行バスを利用し、三厩<sup>みんまや</sup>駅まで移動した後、外ヶ浜町の町営バスに乗り乗るか、北海道新幹線の奥津軽いまべつ駅から乗合タクシーを利用する方法がある。取材時は奥津軽いまべつ駅から乗合タクシー「わんタク」を利用し、

30分ほど乗合タクシーに揺られて青函トンネル記念館に向かった。記念館周辺は風を遮る山や建物がなく、強風により風力発電のタービンが高速で回転している。また、付近には青函トンネルの工事で使用した設備の説明板がある。

## 見て触れて歴史を学ぶ

館内に入ると、すぐ目の前に受付があり、ここで入館券を購入して、展示室に入る。

1階展示ホールには、青函トンネルの全景を表した模型が壁一面に掲げられている。展示室にあるビデオのスイッチを押すと、壁面の模型が説明箇所ごとに光り、その仕組みや役割をわかりやすく解説してくれる。展示物の説明も詳細で、当時を想像しながら見て回ることができ

る。さらにトンネル掘削工事の模型や実際の工事で使用した道具など、貴重な資料も多数展示されている。

2階ギャラリーには青函トンネルの歴史を学べるシアタールームが設置されているほか、工事現場で活躍した測量機器なども展示されている。世紀の大工事となった青函トンネル完成の背景には、こうした最新機器の存在も大きかった。

## 最大の見どころ「体験坑道」

青函トンネル記念館最大の見どころは、実際に青函トンネル内を見学できる「体験坑道」という見学コースだ。実際の工事で作業員の移動や資材の運搬用として使用していた竜飛斜坑をケーブルカー「もぐら号」に乗って、海面下 140m まで降下して作業坑内を見学できる。一般の

利用客が青函トンネル内を見学できる唯一の場所であるが、2023年9月に「もぐら号」の車枠に不具合が発見されたため運休となり、現在は2024年4月の営業再開を目指している。

## 現存する青函連絡船

青森県には青函トンネル記念館のほかにも、関連する観光スポットが



## 青森県観光物産館 アスパム

J 青森駅から徒歩 8 分の場所にある、三角形のデザインが特徴の複合施設だ。土産店や飲食店のほか、360 度の 3D 映像体験が楽しめるデジタル映像シアターやコミュニティ施設がそろっている。また、13 階展望台 (地上 51m) からは青森市街だけでなく、下北・津軽・夏泊<sup>なつどまり</sup>の各半島や陸奥湾などを一望することができる。

開館時間：8:30～23:00 (店舗・施設によって営業時間が異なる)  
 電話：017-735-5311  
 住所：青森県青森市安方 1-1-40



現場レポート  
(YouTube動画)は  
こちらから！





①体験坑道へ続くトンネル ②記念館駅に停車中の事業用車 ③「もぐら号」

ある。JR 青森駅東口から徒歩 5 分の場所にある青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸は、かつて航行していた船内に、貴重な資料を多数展示している。当時の青森駅のぎわいを再現したブースがあるほか、車両甲板には青森や函館で活躍していた車両が展示されており、青函トンネルができる前の歴史を学ぶことができる。

### 青函トンネルの歴史

ここで、青函トンネルの歴史を簡単に振り返ってみよう。

青函トンネル建設の構想は、1939 年頃から存在したと言われている。第 2 次世界大戦終戦後の 1946 年には、津軽海峡連絡隧道調査委員会が設置され、測量と地質調査が開始されたが、実現は難しいという見方もあった。

津軽海峡にトンネルを通す議論が本格的に行われるようになった背景には、1954 年 9 月に発生した青函

連絡船洞爺丸事故がある。死者・行方不明者 1,155 人を出した海難事故は、「津軽海峡にトンネルを掘ろう」という国内世論が高まる契機となった。海底ボーリングや深海探査艇による潜水探索などにより慎重にルート選定を進め、1963 年 8 月に当時の国鉄常務会が青函トンネルの試掘調査開始を決定。翌 1964 年 3 月に日本鉄道建設公団〔現在の鉄道・運輸機構（JRTT）〕が発足し、調査業務を国鉄から引き継いだ。

同年 5 月に北海道側の入口・福島町吉岡から調査坑の掘削を開始。掘削地点まで潜る斜坑と本坑に沿って進む作業坑、先進導坑により地質や湧水の状況を調査し、1966 年 3 月に本州側の竜飛からも掘削をスタートした。そして 1971 年 4 月、運輸大臣が将来的に新幹線が走行可能な設計を行うように指示し、同年 9 月、本工事に着手した。実際に列車が走行する本坑は、これ以降本格的に建設が開始された。

### 困難を極めたトンネル工事

青函トンネルの工事は決して順風満帆というわけではなかった。トンネルの完成までに 34 人の作業員が命を落とした。記念館のそばには青函トンネル工事殉職者慰霊碑が建てられ、工事の過酷さを現代に伝えている。

また、海底トンネルの工事は水との闘いであり、青函トンネルも 4 回にわたり異常出水事故を経験している。その中でも特に大規模な異常出水事故は 1976 年 5 月に発生したもので、最大で毎分 70t もの水がトンネル内に押し寄せ、3km にわたり作業坑が水没。排水が間に合わず、一時は完全な水没も危ぶまれた。処理能力を高めて排水を続けたが、完全に排水を完了するまで 2 カ月を要し、工事は遅延することとなった。

1983 年 1 月 27 日、ようやく先進導坑が貫通して本州と北海道が

陸続きとなった。そして 1985 年 3 月 10 日、ついに本坑が貫通。構想から 46 年の歳月を経て、悲願が達成された。

1988 年 3 月には津軽海峡線が開業し、列車が青函トンネルの走行を開始。トンネル内には竜飛海底駅と吉岡海底駅が設置され、観光客も多く訪れた。また、本州から北海道へ直通する貨物列車の運行が開始されたことで、貨物の遅延が大幅に減少した。

2016 年 3 月には北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）が開業し、現在は「はやぶさ」、「はやて」と貨物列車が本州と北海道を結んでいる。

JRTT は前身である日本鉄道建設公団時代から、青函トンネルの工事に携わってきた。完成まではもちろん、完成後も貸付鉄道施設改修事業としてメンテナンス業務を担当している。列車の運転や安全対策に必要な設備の経年劣化を調査し、排水設



青函連絡船青森棧橋可動橋跡（上）  
船内には青森や函館で活躍していた車両を展示している（下）



連絡船時代の青森駅付近の様子を再現

青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸



①②立体モデルを使用して、工事の様子をわかりやすく再現している（提供：青函トンネル記念館） ③青函トンネル工事殉職者慰霊碑



龍飛埼灯台(左)と工藤幸治館長(上)

備や列車火災検知装置の更新、先進導坑の補修などを行っている。

### 開通による大きなメリット

記念館の工藤幸治館長は、外ヶ浜町の三厩地区で生まれ育った。

「小学校や中学校に通っていた頃は青函トンネルの工事が行われており、地元で活気がありました」と話す。学生時代に一度青森県を出たが、20代後半に故郷へ戻り、青函トンネル記念館の職員となった。現在は館長を務めている。

津軽海峡は夏場を過ぎると風が強くなるうえに台風が接近することも多く、冬になると多くの雪が降る地域であるため、安定した輸送を行うことができるトンネルは必要不可欠

だった。トンネル完成後の効果について、工藤館長は「開通後は荷物到着の遅延が大幅に減少し、人的交流も増えています。また、観光による経済効果も大きく、北海道と本州がつながることで、旅客流動をより活性化させたと思います」と語る。

来館者数は1988年の開館以来10年ほどは右肩上がりが増加し、新型コロナウイルスの影響を受けた2020年を除けば、おおむね安定的に推移しているという。「来館者は鉄道ファンと一般の見学者が半々くらいです。リピーターも多く、大勢の人に愛されている施設であることを実感しています」と教えてくれた。

事実、2023年2～3月に実施された「もぐら号」の重要部検査を目

的としたクラウドファンディングでは、多くの支援により目標金額を達成し、検査も完了した。展示室の入口にはクラウドファンディングで支援を行った個人や企業の名前が入ったボードが掲示されている。

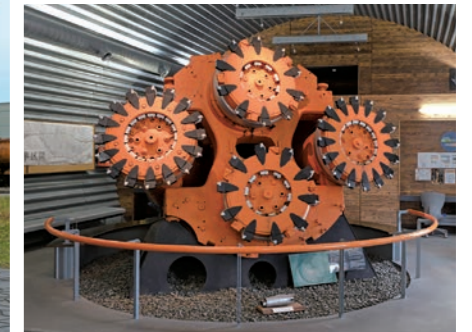
「2024年はゴールデンウィーク前の開館を予定しており、現在再スタートに向けて取り組んでいます。青函トンネルを体感できる施設として、また観光スポットとしてぜひ足を運んでいただけたらと思います」と工藤館長。

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の工事が進む今、あらためて青函トンネルに思いを馳せてみてはいかがだろうか。



福島町にある青函トンネル記念館

**青函トンネル記念館(北海道)**  
 ■開館時間：9:00～17:00  
 (冬季間は休館)  
 ■入館料：大人400円、  
 小・中・高校生200円  
 ■電話：0139-47-3020  
 ■住所：北海道松前郡福島町字三岳32-2



TBM836型掘削機

## 北海道側にもある、もう1つの青函トンネル記念館

人口3,400人ほどの北海道松前郡福島町にも、青函トンネル記念館がある。記念館は北海道新幹線木古内駅から車で30分ほどの場所に位置しており、青函トンネルをイメージした斬新なデザインが印象的だ。

### 工事とともに人口が増加

福島町は外ヶ浜町と同じく、青函トンネルの工事の大きな影響を受けた町だ。工事開始とともに人口が増加し、福島町観光協会によると、ピーク時には約1万3,000人まで増えたという。

記念館の敷地には、1960年から青函トンネルの海底地質調査で活躍した潜水探査艇「くろしおII号」や、



潜水探査艇「くろしおII号」

トンネル内の湧水を排出していた排水ポンプが展示されている。いずれも青函トンネルの工事で活躍した貴重な資料だが、屋外展示のため老朽化も進んでおり、修繕費用の確保が課題だという。

館内に入ると、巨大な掘削機「TBM836型」が目に入る。青函トンネルの工事では作業坑および先進導坑の掘削に使用され、4,000mほど掘削する実績を上げた。



トンネルをイメージした館内には、さまざまな資料が展示されている

### 親子で一緒に楽しめる施設

展示室に入ると、青函トンネルに関する模型や当時の新聞記事のほか、先進導坑貫通のボーリング時に作業員たちが署名した寄せ書きや、吉岡海底駅の駅名標などが展示されている。また、子どもたちが楽しめるような塗り絵コーナーも充実しており、親子で来館しても楽しめる工夫が満載。こちらの青函トンネル記念館にも足を運んでみてはいかがだろうか。

### 青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ

東北三大祭りのひとつに数えられている青森ねぶた祭を紹介する施設として、2011年1月にオープンした。JR青森駅から徒歩1分の場所に位置し、年間を通してねぶた祭の熱気を体感することが可能だ。この施設では、青森の発展を見つめ続けてきたねぶた祭の歴史や魅力を紹介している。1階の「ねぶたミュージアム・ねぶたホール」には、実際に祭で運行されたねぶたが多数展示されている。



開館時間：9:00～18:00 (5～8月は9:00～19:00)  
 休館日：1月1日、8月9・10日、12月31日  
 入館料：大人620円、高校生460円、小・中学生260円  
 電話：017-752-1311  
 住所：青森県青森市安方1-1-1

